

飛騨高山温泉の宿

温泉法第18条第1項の規定に基づく温泉成分表の掲示

◆ 温泉名：ひだまりの湯

◆ 泉質：ナトリウム-炭酸水素塩・塩化物泉(弱アルカリ性低張性低温泉)

◆ 泉温：31°C

◆ 利用場所の温度：－

◆ 禁忌症(浴用)

※ 一般的禁忌症

病気の活動期(特に熱のあるとき)、活動性の結核、進行した悪性腫瘍又は高度の貧血など身体衰弱の著しい場合、少し動くと息苦しくなるような重い心臓又は肺の病気、むくみのあるような重い腎臓の病気、消化管出血、目に見える出血があるとき、慢性の病気の急性増悪期

※ 泉質別禁忌症： 該当なし

◆ 適応症(浴用)

※ 一般的適応症

筋肉若しくは関節の慢性的な痛み又はこわばり(関節リウマチ、変形性関節症、腰痛症、神経痛、五十肩、打撲、捻挫などの慢性期)、運動麻痺における筋肉のこわばり、胃腸機能の低下(胃がもたれる、腸にガスがたまるなど)、軽度高血圧、耐糖能異常(糖尿病)、軽い高コレステロール血症、軽い喘息又は肺気腫、痔の痛み、自律神経不安定症、ストレスによる諸症状(睡眠障害など)、病後回復期、疲労回復、健康増進

※ 泉質別適応症： きりきず、末梢循環障害、冷え性、うつ状態、皮膚乾燥症

◆ 入浴上の注意事項

※ 温泉の浴用は、以下の事項を守って行う必要がある。

ア.入浴の注意

(ア) 食事の直前、直後および飲酒後の入浴は避けること。酩酊状態での入浴は特に避けること。

(イ) 過度の疲労時には身体を休めること。

(ウ) 運動後30分程度の間は身体を休めること。

(エ) 高齢者、子供及び身体の不自由な人は、1人での入浴は避けることが望ましい。

(オ) 浴槽に入る前に、手足から掛け湯をして温度に慣らすとともに、身体を洗い流すこと。

(カ) 入浴時、特に起床直後の入浴時などは脱水症状等にならないよう、あらかじめコップ一杯程度の水分を補給しておくこと。

イ.入浴方法

(ア) 入浴温度 高齢者、高血圧症若しくは心臓病の人又は脳卒中を経験した人は、42°C以上の高温浴は避けること。

(イ) 入浴形態 心肺機能の低下している人は、全身浴よりも半身浴又は部分浴が望ましい。

(ウ) 入浴回数 入浴開始後数日間は、1日あたり1~2回とし、慣れてきたら2~3回まで増やしてもよい。

(エ) 入浴時間 入浴温度により異なるが、1回あたり、初めは3~10分程度とし、慣れてきたら15~30分程度まで延長してもよい。

ウ.入浴中の注意

(ア) 運動浴を除き、一般に手足を軽く動かす程度にして静かに入浴すること。

(イ) 浴槽から出る時は、立ちくらみを起こさないようにゆっくり出ること。

(ウ) めまいが生じ、又は気分が不良となった時は、近くの人に助けを求めつつ、浴槽から頭を低い位置に保ってゆっくり出て、横になって回復を待つこと。

エ.入浴後の注意

(ア) 身体に付着した温泉成分を温水で洗い流さず、タオルで水分を拭き取り、着衣の上、保温及び30分程度の安静を心がけること(ただし、肌の弱い人は、刺激の強い泉質(例えば酸性泉や硫黄泉等)や必要に応じて塩素消毒等が行われている場合には、温泉成分等を温水で洗い流した方がよい)。

(イ) 脱水症状等避けるため、コップ1杯程度の水分を補給すること。

オ.湯あたり

温泉療養開始後おむね3日~1週間後に、気分不快、不眠若しくは消化器症状等の湯あたり症状又は皮膚炎などが現れることがある。このような状態が現れている間は、入浴を中止するか、又は回数を減らし、このような状態からの回復を待つこと。

カ.その他

浴槽水の清潔を保つため、浴槽にタオルは入れないこと。

◆ 温泉の利用に関する情報

※ 入浴適温にするために加温しています。

※ 温泉の供給量の不足を補うため、加水しています。

※ 温泉資源の保護と衛生管理のため、循環ろ過装置を使用しています。

※ 温泉水の衛生保持のため、塩素系薬剤を使用しています。

温泉分析書

◆ 湧出地における調査及び試験成績

調査及び試験年月日：平成27年2月19日

調査及び試験者：株式会社 神岡衛生社 辻井 伸明

泉温：31°C(外気温 3°C)

湧出量：485L/min(掘削動力揚湯) (管理者からの聞き取り調査による)

知覚的試験：無色透明、微塩味、無臭 pH値：8.2(ガラス電極法) ラドン(Rn)：測定せず

◆ 試験室における試験成績

分析終了年月日：平成27年3月18日

試験者：株式会社 神岡衛生社 辻井 伸明

知覚的試験：無色透明、微塩味、無臭(試料採取20時間後)

密度：0.9995g/cm³(20°C/4°C)

蒸発残留物：1095mg/kg(乾燥温度180°C) pH値：8.25(ガラス電極法)

電気伝導率：171.6mS/m(25°C)

◆ 検水1kg中の成分、分量及び組成

陽イオン成分	mg	mval	mval %	陰イオン成分	mg	mval	mval %
リチウムイオン(Li ⁺)	0.3	0.04	0.21	フッ化物イオン(F ⁻)	6.0	0.31	1.66
ナトリウムイオン(Na ⁺)	447.0	19.44	96.34	塩化物イオン(Cl ⁻)	195.3	5.51	29.14
カリウムイオン(K ⁺)	7.5	0.19	0.95	臭化物イオン(Br ⁻)	0.4	0.005	0.03
マグネシウムイオン(Mg ²⁺)	2.8	0.23	1.13	硫黄イオン(SO ₄ ²⁻)	13.7	0.29	1.51
カルシウムイオン(Ca ²⁺)	4.7	0.24	1.16	炭酸水素イオン(HCO ₃ ⁻)	777.6	12.74	67.39
ストロンチウムイオン(Sr ²⁺)	1.6	0.04	0.18	炭酸イオン(CO ₃ ⁻)	3.2	0.05	0.28
バリウムイオン(Ba ²⁺)	0.2	0.002	0.01				
アルミニウムイオン(Al ³⁺)	0.02	0.002	0.01				
陽イオン総計①	464.0	20.18	100.00	陰イオン総計②	996.1	18.91	100.00

非解離成分	mg	mmol	溶存ガス成分	mg	mmol
メタケイ酸(H ₂ Si ₂ O ₅)	21.2	0.27	遊離二酸化炭素(CO ₂) (遊離炭酸)	—	—
メタホウ酸(HBO ₂)	14.1	0.32	遊離硫化水素(H ₂ S)	—	—
メタ亜ヒ酸(HAsO ₂)			溶存ガス成分総計④	0.0	0.00
非解離成分総計③	35.3	0.59			

溶存物質(ガス性のものを除く) ①+②+③ 1.495g/kg

成分総計 ①+②+③+④ 1.495g/kg

その他微量成分(mg/kg)：総ひ素 0.002、総クロム 0.005、鉛 0.005、カドミウム 0.005、総水銀 0.0005

◆ 泉質：ナトリウム-炭酸水素塩・塩化物泉(弱アルカリ性低張性低温泉)

● 分析終了年月日：平成27年3月18日

● 分析機関：株式会社 神岡衛生社(分析機関登録番号 岐阜県第3号)